

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570911024		
法人名	有限会社 なでしこ		
事業所名	グループホームなでしこ		
所在地	秋田県鹿角市花輪字下花輪124-1		
自己評価作成日	平成23年1月19日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑いのある生活のお手伝い」を理念に掲げ、管理者及び職員が常に念頭に置き明るい会話や利用者様の状態に応じた柔軟な支援など理念の実践に努めている。商店街や民家に隣接して、また、施設が以前料亭として地元でも愛されていたために、地域との交流も深く、年間行事の各、色々な催しにも地域住民の方々に参加していただいております。二階には大広間が有りそこで、保育園の子供達、趣味の会などの慰問の他自治会の方々の交流の場としても活用していただいております。誰でも気軽に立ち寄れる雰囲気、利用者様には、明るく表情豊かに自由な暮らしをしていただいております。管理者や職員が、入所者様の事を第1に考え安心して安全な生活が出来るよう支援しており、利用者様も1人1人が思い思いの自由な生活を職員と共に楽しんでいます。

職員の技術、知識向上にも力を入れており様々な研修に参加させ人材の育成に取り組んでいます。

今後は、増設に向けて家族会を設け、遠くにいる家族や訪問が少ない家族の方とも、常に連絡を取り易くして利用者様を身近に感じられるように工夫していきたいと考えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.akita-longlife.net/evaluation
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症ケアの実態について、運営推進会議に参加の2つの町内会や大型店舗等の理解を得て、協働のもと、事業所行事や防災対策、日々の声かけや挨拶、除雪作業等のボランティア活動等、地域密着型事業所として地域の協力体制には、他に例を見ないほどに根差した取り組みが観られます。利用者、職員とも明るく、笑顔で接し、利用者の意欲の発揚と笑顔を引き出すための活動を日々模索し、活動に結び付けようと意欲的に取り組まれている事業所です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通3丁目9-31		
訪問調査日	平成23年2月9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑いのある生活のお手伝い」を理念に掲げ、実践するように介護に取り組んでいる。また、地域の一員として、地域の方々と共に暮らしていける事業所作りを目指しており理念を具体化した方針を示している。	事業所内の目に付く場所に多数掲示され、利用者が長年住み慣れた廻りとの関係を保っていけるように会議等で理念を共有し、日々の生活の中で実践に繋げております。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に、近所のスーパーや商店街を利用し、また通勤時や外での作業時などに声え掛けや挨拶をしている。利用者の散歩なども商店街などを歩き地域の方々と交流を図っている。	日々の散歩や買い物等で常に声掛けが行われ、除雪作業や避難訓練、避難場所の提供、行方不明時等の地域の方々の協力体制が定着しており、地域に根差した交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	行事などで地域の方々と交流があるときや、周囲の人より相談がある時は、アドバイスや情報提供をするなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会合の場を持ち家族や地域住民の報告・連絡・協議をしている。その上で意見交換をしている。連絡会議で話あったことを職員で共有し取り組んでいる。	2か月に1回、定期的に開催され、その開催内容は職員、家族等に報告されております。	会議録の内容が話し合われた項目に留まっておりますので、内容が確認できるよう記載方法に工夫されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回の介護支援専門員会議に参加して、情報交換などによるサービス向上に取り組んでいる。	月に1回行われる介護支援専門員会議に市の職員と地域包括支援センター職員の参加があり、情報提供や意見交換が行われている他、随時、包括支援センター職員とは連絡を取り合い連携されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、新聞などの記事を事例に揚げ、研修を行いながら理解を深め正しい知識のもと身体拘束ゼロを目指し実践している。	マニュアルや研修において、職員は身体拘束をしてはならないことを理解され、拘束をしないケアを実践されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法案については、まだまだ知識不足であり、理解しているとは言えない。勉強会でマニュアルや新聞記事などを取り上げながら知識を深め、職員同士がお互い注意をして、見過ごすことのないよう努めている。		

グループホーム なでしこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文面だけではなく、例などを挙げながら説明を行い納得された上で契約をしていただいている。見学時には、ホームのこれまでの退去者数、理由、医療連携体制について意識説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を重要事項に明記すると共に、ご家族との間に相談苦情を言えるような雰囲気をつくりながら利用者一人一人の意見を会話などを通じて聞き入れ対処している。	家族等が気軽に事業所内に立ち寄り、話しやすい雰囲気作りをされ、利用者からも日々の生活の中でさりげなく要望が言えるように配慮されており、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議を管理者(運営者)と共に共催し、又は、毎朝のミーティングなどで職員と一緒に意見や提案を話し合い、反映させている。また、必要に応じて個別面談を行い意見の収集を行っている	運営者は、毎月の職員会議に出席され、職員が忌憚りの無い意見が出せるように話しやすい雰囲気の中で提案や要望の聴取に努め、運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	小さい意見も吸い上げながら常に職場環境を改善し、人事考課表を作成し、各職員の職務能力及び知識を把握しながら就業環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画による機会の確保は出来ていないが、ヘルパー等の資格習得に向けてのサポート体制を充実させ、必要な研修なども積極的に受講させている。必要に応じて個別にOJTなどによりケアへの不安を無くすなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者の個人的な交流は有るが、組織的な交流の場が少ないために、地域のグループホーム協議会の立ち上げの協力を市にお願いしている。		

グループホーム なでしこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症で有れば、基本的に受け入れる。 事前に要介護認定の確認、診断書を提出してもらっており、家族の希望、要望、本人との面談を行い検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の相談時及び契約時に説明を行い同意を得ている。 相談があれば、随時受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常のコミュニケーションから心を通して信頼関係を築いている。 時には、利用者に長年の人生経験から得た生活の知恵や地域の歴史の話をしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族の面会時には、声掛けを行い、利用者の近況を報告し、情報交換や交流を深め、家族の意見、要望を受入れやすい様、企業体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散髪など、利用者の馴染みの店などを利用したい場合は支援を行っている。 電話、手紙などの支援や、友人、知人が気軽に来訪できるような雰囲気作りに努めている。	これまで利用していた理容室や病院、買い物で利用していた店等が継続して利用でき、友人や親戚等との関係が途絶えないように手紙や電話、面会等の支援に努めておられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がより良い関係を築けるように支援を行っている。時には、職員が間に入り話しを盛り上げたり言い換えて話しをしている。		

グループホーム なでしこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院によってサービス終了をされた方のご家族から相談を受けた場合は出来る限りのアドバイスをし、他施設に移られた方の訪問などご本人や家族の迷惑にならない形で、交流を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族、知人より情報収集アセスメントを行い、一人一人の意志を最大限に尊重しながら、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	日々の生活の中で、さりげない話しかけに思いや意向を声に出してくださる方が多く、情報を共有しながら把握に努めております。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人より情報収集アセスメントを行い、一人一人の意志を最大限に尊重しながら、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、排泄表チェック、食事摂取量、声かけによる心身の状態の確認などで現在の状態を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的に3ヶ月毎にモニタリングを実施し介護計画を見直し、また、計画の見直しについては利用者の状態が変化した場合に必ず行う。家族からの情報も大切に、本人の考えに基づいた介護計画の立案に努めている。	担当職員が状況報告書を毎月ご家族等に提示される際、利用者状況の確認ができ、変化時、介護計画に反映できるように話合われ、現状に即した介護計画書が介護支援専門員によって作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者のその日の様子や状態、発した言葉など事細やかに記入し、また排泄、睡眠、食事の摂取量、バイタルチェックなど個人の状態が判るシートを作成し記入している。 職員はそれをもとに朝の申し送りでの確認をしながら情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

グループホーム なでしこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や踊りのボランティアの受入れや近隣の保育園との交流をしている。 消防や、警察には、協力を要請いつでも対応できる体制が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院での定期受診には、職員が必ず同行し(家族が同行できる場合は、状況の共有に努め)、日常の変化や気に掛かる点などを報告・相談し利用者の健康管理には最善の対策を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者及び管理者補佐がプライバシー管理のもと責任をもって情報交換や相談に対応している。 また、入院時の状態や退院に向けての医療機関との連携もしっかり行い整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、入居相談を受けてから入居時まで信頼関係を築き上げながら、入居後は、より深い信頼関係を築きあげて、早い段階での終末期における希望を聞くようにしている。 病状が悪化した時点で、状況を把握しながら本人家族、医療機関と相談して方針を立てていく。	医療行為が継続して発生した場合を除き、本人・家族等、医師、事業所で十分な話し合いが行われ、往診を受けながらの終末期ケアが行われており、実績もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力のもと、定期的に行っており、マニュアルも作成し職員が急変時、事故発生時に的確に適切に対応できるように身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、春と秋に近隣住民参加の下、避難訓練を実施している。消防署、地域住民、自治会の協力も得ている。 夜間災害を想定した訓練を重視し、新入社員に対しては、入社後の訓練実施を必ず行っている。	年2回の消防署員立ち合いの防災訓練の他、独自に新任職員採用時や消火器を使用したの訓練、AED使用の心肺蘇生訓練等が地域住民の協力も得ながら実施されております。また、自動火災報知機が設置されており、スプリンクラーの設置も予定されております。	

グループホーム なでしこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保、業務上得た情報の秘密保持は最大限努めており漏洩を防いでいる。 一人一人の人格を尊重し、丁寧な対応と、本人が希望する場合、利用者の出身地に合わせた方言(京都弁)などを使いながら利用者として接している。	一人ひとりの人格を尊重され、プライバシーを損ねるような、気になる言動は観られませんでした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者からの意志表示が出来るように話しやすい環境を作る様に努めている。 利用者の個々に応じた対応をし、少しでも自己決定してもらう様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴は定時にサービスを提供しているが、その他は一人一人の生活リズムで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	外出や行事に参加する際は、帽子、靴、服装などおしゃれに気を配る。 理容室、美容室に関しては本人の希望により行きつけの店に行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事において 献立に利用者の希望を取り入れながら料理の下ごしらえ(野菜切り、皮むき)など一緒に行っている。	利用者の持っている力を十分に引き出し、できることのお手伝いをいただきながら、利用者と職員と一緒に食事を摂り、味付けに対する意見や笑顔が観られ、楽しまれておりました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分補給の量や回数など記録し、お風呂上がりや朝の健康体操、レクリエーション後などの水分補給には多めに摂取していたくなどきめ細やかな支援を行っている。食事、各利用者の疾患を考えながらの提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修を受け、それを実践でも生かしながら各利用者にあった支援を行っている。また、協力医療機関より往診時利用者にもわかりやすいアドバイスを受けより良いケアに努めている。		

グループホーム なでしこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに食事の摂取量も含め利用者の排泄リズムを把握し、声かけによる本人の排泄の状態を確認し、トイレ誘導や排泄のアドバイスなどをして適切な対応で支援を行っている。	チェック表をもとに排泄パターンを知り、声掛けや誘導によって、失禁が少なくなり使用物品の減少に結びつける等、優れた取り組みが観られます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医との連携により、利用者の状態を相談しながら服薬を適切に行い、健康体操や施設内を歩く歩行訓練などをおこなって水分補給なども考えながら便秘の予防に取り組んでいる。また、食事の面からも繊維質を多く含んだ食材を選び献立を立てている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間については、午前午後に分けており利用時間は利用者の意見を聞き入れ好きな時間に入れるよう体制を整え支援している。また、排泄処理後の不愉快さを解消するために入浴を利用してもらい常に衛生的に生活していただけるよう心がけている。	最低でも週に2回は入浴していただけるように支援されている他、失禁のみられた時や本人の希望に沿った入浴支援が行われております。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の必要性は職員が理解し、利用者が安心して休息出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個人記録に最新の服薬リストを明示しており、薬効をいつでも確認できる様にしてある。一週間分の服用ケースを用いて飲み忘れ、誤飲の防止をしている。服用後の様子観察や、症状の変化などの確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳む事や干す事、食事時の声かけ、テーブル拭きなどを行って貰っている。 カラオケ、裁縫、書道、生け花、お茶などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	天気の良い日は、外に出かけるよう積極的に働きかけ希望が有れば対応している。	散歩や買い物、事業所前の雪寄せ等の日常的な外出の他に、花見・紅葉ドライブ、外食、運動公園への外出など、全員での外出の他、個別での外出支援も行われています。また、家族等の協力を得ての外出もあります。	

グループホーム なでしこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お金の所持はしないことにしている。事務で立替払いをしてまとめて請求している。利用者本人が管理出来る場合には、買い物の際それに応じて自由に使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気扇を使用したり消臭剤で玄関、トイレ、各居室に不快な臭い等がないように心がけている。冬場は、定時の空気の入換えを行っている。生活感や季節感を感じるために年間行事の飾り付けや花などを飾ったりしている。	事務室を囲むように食堂、玄関、居間、居室等が配置され、廊下を一周できる創りとなっており、日当たりも良く、季節感のある飾り付けや和める雰囲気のある絵や文言で誰もが居心地良く過ごせるような工夫が観られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	共用空間での一人になる場所づくりは難しい課題ではある。全く一人になりたい時は、自室でいつでも自由に過ごせる。 入所者同士で一緒に過ごせる、食堂などの共用空間では、席の配置に気を配り利用者の了解を得て柔軟に席替えなどを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の家で使い慣れた家具や寝具などをそのまま利用していただいている。家具は利用者の利便性を考えながら工夫をして配置している。	アパートを引き払い、そのまま荷物を持ち込まれた利用者や絨毯に炬燵、筆筒、テレビ、小物等、本人にとって必要と思われる荷物が持ち込まれ、居心地の良い空間作りが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、利用者が自室だとわかりやすい様に名札を工夫して、トイレには見やすい場所に表示をつけ、転倒防止などの手すりや、転倒した際の身体への衝撃を和らげるように全床クッションフロアーに施工してある。		